

京丹後市立図書館

2022年度

おすすめの本

高学年
5・6年生向き

『孝行手首 当世落語風絵本』(理論社)



大島 妙子/作

一人息子を亡くしてしまった大工職人の松吉と妻のお光。20年後、今度は松吉が肺炎で死にかけたが、夢で三途の川を渡る途中、大男にえり首を掴まれ、命拾いする。だが、松吉のえり首には大男の手首がくっついていて…。

『7年目のランドセル ランドセルは海を越えて、アフガニスタンで始まる新学期』(国土社)



内堀 タケシ/写真・文

使用済みランドセルをアフガニスタンの子どもたちへ贈る「ランドセルは海を越えて」の活動を通して、今日でも戦闘やテロが続くアフガニスタン国内の状況や子どもたちの生き生きとした表情を伝える写真絵本。見返しに写真あり。

『失敗図鑑 すごい人ほどダメだった!』(文響社)



大野 正人/著

天才ゆえに死にかけたダリ、正直すぎて炎上した与謝野晶子…。世界に名を残した偉人たちの失敗と、彼らとその失敗からどうやって復活したかを紹介する。「忘れる・遅れる・嘘をつく」子どもによくある失敗対策も掲載。

『女の子だから、男の子だからをなくす本』(エトセトラブックス)



ユン ウンジュ/文 イヘジョン/絵 すんみ/訳

女の子らしさって? 男の子らしさって? 女の子も男の子も、ステキな人になるために-。性別の枠組みから自由になり、これから必要なジェンダーの知識を紹介した絵本。

『たとえ悪者になっても ある犬の訓練士のはなし』（静山社）



佐藤 真澄/作

「殺処分するしかない」と宣告された、人を咬む犬たち。どんなにきびしい訓練になろうと、暴力だと批判されようと、人を咬む危険な犬を更生させるべく日夜奮闘している、実在の訓練士のはなし。

『ジェミーと走る夏』（ポプラ社）



エイドリアン・フォゲリン/作 千葉 茂樹/訳 沢田 としき/画

黒い肌の少女ジェミーと、白い肌の少女キャス。2人はマラソン大会で優勝することを夢見て、ひそかに練習を始めるが…。人種の偏見を乗り越えて、少女たちが育む友情を生き生きと描いた、ひと夏の物語。

『31センチの約束』（西日本新聞社）



嘉悦 洋/文 ながん/絵

白血病になった小学4年生の少女と、彼女のために自分ができることを頑張る同級生の少女。ヘアドネーションを通して、悩み、喜び、ケンカもしながら、少しずつ成長していく少女2人の友情を描いた物語。

『ジャコのお菓子な学校』（文研出版）



ラッセル・オスファテール/作 ダニエル遠藤みのり/訳 風川 恭子/絵

食べることが大好きなジャコは、図書館でお菓子の作り方のページを見つけた。お菓子を作るたびに、算数も長い文章も苦手じゃなくなってきた。だが、ジャコが友だちとお菓子屋さんを始めると、乱暴な中学生たちがやってきて…。

『ふたり』（講談社）



福田 隆浩/著

クラスでいじめにあっている転校生の佳純と、そのいじめを見つけてしまった准一。ふたりは同じ作家のファンだと知って、作家の秘密を探するため、図書館へ通って謎解きに夢中になる。本が好きなふたりの友情冒険物語。

『みつばちと少年』（講談社）



村上 しいこ/著

クラスの中でうまくやっていけない雅也は、中1の夏休みを利用して、養蜂場を営むおじさんのいる北海道へ行くことに。寝泊りすることになった「北の太陽」では、さまざまな事情を抱えた子どもたちが暮らしていて…。

無断での複製・転載を禁止します。本の内容紹介はTRC MARCより転載しています。

ほかにもあるよ おすすめの本

『梅干しの絵本』

こしみず まさみ/へん
こやま ともこ/え
(農山漁村文化協会)

『木かげの秘密』

浅野 竜/作
杉田 比呂美/絵
(学研教育出版)

『あるヘラジカの物語』

星野 道夫/原案
鈴木 まもる/絵と文
(あすなる書房)



貸し出し中の本は予約できます。くわしくは職員におたずねください